

8月23日 年間第21主日 マタイ16章13～20節 天の国の合鍵

今日の福音の箇所は少し間をおいてペトロを教会のかしらに任命される場面です。この前に再びパンを増やす奇跡が行われますが残りのパンは7つのかごいっぱいでした。7はギリシャ文化では世界を表す数字であるといわれています。このことは福音がイスラエルから世界へと広まることを象徴していると考えられることもできます。先週の福音の出来事もそうでしたが、今日の福音では世界に宣教する教会の使命が述べられています。

イエスは弟子たちに「人々はわたしのことを何者だと言っているか」と尋ねられます。彼らは口々に「エリヤだ」「預言者だ」「洗礼者ヨハネだ」という人々のうわさを答えますが、さらにイエスは「ではあなたがたはわたしを何者だというのか」と問いかけられます。この問いはわたしたちにも与えられています。「教会ではこう教えています」「聖書にはこう書かれています」ではなく、「わたしにとってイエスはどういう方か」という答えが求められているのです。

そのときペトロはすぐに「メシア、生ける神の子です」と答えます。ペトロは思っていることをすぐに口に出す性格のようですね。ほかの弟子たちがどう答えようか考えている間に真っ先に答えたのです。それでイエスはペトロに「この岩の上に教会を建てる」と、彼を教会のかしらに任命されます。なんだかペトロがクイズに正解したので、ごほうびをもらったように思うかもしれませんが、「わたしのことをメシア、神の子であることを伝えるのが教会だ」という意味がそこに込められています。もちろん、教会が一つの共同体として歩むためには誰かがまとめ役になる必要がある所以他を任命されたのでしょう。

そして、ペトロに天の国の鍵を授けると言われます。それでペトロの後継者である歴代教皇は紋章に鍵を入れることになっているのです。わたしは神学生のお手伝いしている教会の聖堂の鍵を閉める役割をしていたので、青年たちに「地獄の力もこれには勝てないんだよ」と預かっていた鍵を見せびらかしていた思い出があります。

ペトロが言った「あなたはメシア、生ける神の子です」という言葉は同時に天の国（神の国）への入り口でもあります。イエスのみことばが神の国の福音であり、それを信じて行うことが神の国への道だからです。ということは、ペトロの信仰宣言は文字通り神の国への鍵、キーワードだということですね。ペトロは教会を代表してイエスから天の国の鍵を預けられたということです。

イエスは「あなたが地上でつなぐことは天上でもつながれる」と告げられました。これはペトロだけでなく、弟子たち、そしてわたしたちにも告げられている言葉です。わたしたちはイエスの福音に希望をおいて歩んでいますが、失意と孤独、あるいは慢心と自己満足のうちに生きている人々が大勢います。そのような人々を神の国に導くために、わたしたちひとりひとりにも天の国の合鍵が預けられているのです。（柳本神父）